

花王のアプローチ

花王は、豊かな生活文化の実現と社会のサステナビリティにつながるよう、「次世代を育む環境づくりと人づくり」をテーマに社会貢献活動を推進しています。

事業で直接アプローチできない課題については、地域社会やNGO/NPOと連携しながら、長期視点で取り組んでいます。

また、社会との接点をつくり、社員の学びの場をつくるため社員

参加型の活動や、モノづくりの基盤を支える文化の発展のためのメセナ支援、(財)花王芸術・科学財団による活動も行なっています。一方、2018年7月のESG部門の新設に伴い、従来の社会貢献活動に加え、R&D活動や事業活動とより関連が深く、長期的な視点で企業価値向上につながる活動をグローバル一体となっ

て行なっていくための検討を進めています。

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

貧困や教育、水やジェンダー平等など、国際社会全体で取り組むべき社会的課題の解決に向けて、企業がその事業活動を通して、もしくは寄付等を通じて取り組むことがますます求められてきています。

花王が提供する価値

花王は事業活動を通じて社会のサステナビリティに貢献するとともに、事業では直接アプローチできない社会的課題の解決をもターゲットとして活動を行ない、誰もが豊かで快適な生活を実現できるよう、よき企業市民として広く社会に貢献していきます。

「環境」「教育」「コミュニティ」の3つを重点分野に、自社の持つリソースや強みを活かし、衛生・清潔を中心とした子どもたちの正しい生活習慣の定着、将来の科学技術や地域社会を担う人財の育成などの教育支援を行なっています。

また、多様なコミュニティとともによりよい社会を築くことをめざし、各地域のコミュニティが抱える社会的課題の解決や地域活性化への貢献、メセナなど豊かな生活文化の発展に関わる支援を行なっています。

「2030年のありたい姿」の実現に関わるリスク

ステークホルダーに対する適切な配慮の欠如やエンゲージメントの不在は、顧客や社員をはじめとするすべてのステークホルダーからの信頼を失うだけでなく、花王の将来的なブランド価値の毀損も招くおそれがあります。

「2030年のありたい姿」の実現に関わる機会

花王は、消費財メーカーとして常に生活者に寄り添う事業活動を行なってきました。それは個々の生活者の利便性や満足度の向上を通して、社会によりよい働きかけをしたいという思いを形にする活動でもあります。

花王は、衛生や水、健康や生活の質の向上など、暮らしに身近な社会的課題に取り組み、常に社会の立場からそれらの活動の意義を考え、世界中で毎日の生活になくはならない存在になりたいと考えています。

貢献するSDGs



方針

花王は以下に掲げる「社会貢献活動方針」を踏まえ、計画的に社会貢献活動を行なっています。

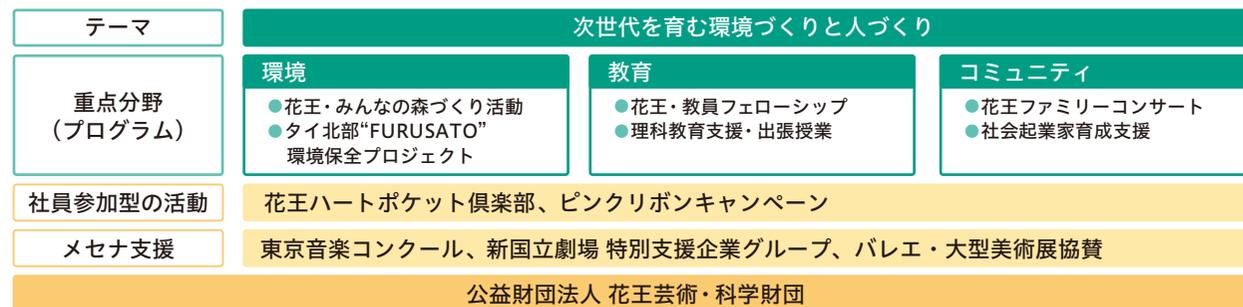
社会貢献活動方針

- 次世代の育成に役立つ活動を行ないます。
- 地域の社会・文化の発展に貢献することを目指した活動を行ないます。
- 持続可能な社会に向けて、環境を守り育てる活動を行ないます。
- 社会的支援として、バリアフリー社会を推進する活動を行ないます。
- 花王の持つ資源を有効に活かせる活動を行ないます。
- 一人ひとりの社員が良き市民として、社会的活動に参加できるような風土をつくります。



→詳細は「社会貢献活動の考え方」
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/approach/

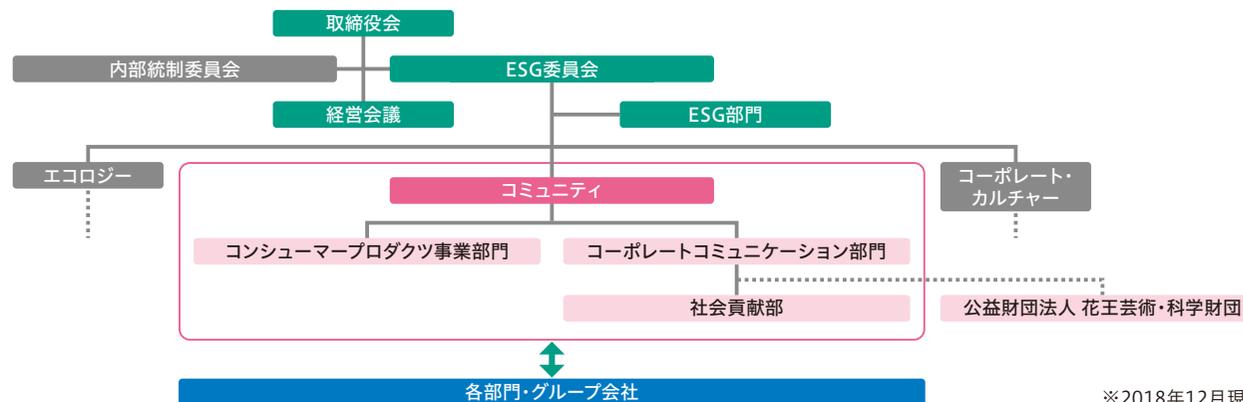
社会貢献活動の全体像



体制

サステナビリティ ステートメントの重点領域「コミュニティ」に向けた取り組みを中心に、コーポレートコミュニケーション部門、社会貢献部が中心となり、コンシューマープロダクツ事業部門や、関連部門、グローバルのグループ各社と連携して、取り組みを進めています。活動概要や活動費等は年に1度、コーポレートコミュニケーション部門統括が取締役会で報告しています。また、R&D活動や事業活動とも関連が深く、グローバル横断的に行なう社会貢献活動については、新設したESG部門で検討を行ない、取り組みを進めています。

社会貢献活動推進体制



※2018年12月現在

教育と浸透

花王では、広く社内外に情報発信を行なうことで、活動への理解を深めてもらうことに努めています。

社内向けには、イントラネットや社員研修の場を通じて事例を共有し、社員が参加できる活動機会を設けることで、社員の社会との接点をつくり視野を広げることをめざしています。

社外向けには、活動を紹介する小冊子やウェブサイトを通じて、活動概要や実施したイベントの紹介を行っています。

ステークホルダーとの協働

花王の社会貢献活動は、NGO／NPOをはじめ、多くのステークホルダーと協働で実施しています。主な社会貢献プログラムの運営パートナーとは、定期的な情報交換の機会を持ち、プログラムの進捗確認や運営の改善につなげています。一方、活動を支援しているNGO／NPOからも、定期的に活動報告をいただき、活動の背景にある社会的課題と、実施された活動による社会的インパクトへの理解を深め、花王がめざす豊かな生活文化の実現への寄与をさらに進める一助にしています。定期的に情報交換を行ない現場の声を聴くことは、現場のニーズや社会の動きに沿ったプログラムへとブラッシュアップされることにもつながっています。

中長期目標と実績

中長期目標

社会貢献活動では、環境、教育、コミュニティの分野を中心に、事業活動ではアプローチできない社会的課題の解決に向けた取り組みを通じ、グローバル各地域の発展をめざします。

また、社員がボランティアとして企業市民活動に参加することで、社会との接点をつくり、社員自身が成長し学びを業務に活かすことをめざします。

1. 子どもたちの正しい生活習慣の定着

ベトナム学校衛生プロジェクト:2016-2020年の5年間で60校35,000人への支援を目標

2. 科学技術を担う人財の育成

JSEC:毎年3校最大9名の高校生を支援

3. コミュニティへの参画と課題解決に向けた支援

社会起業家育成支援:毎年3団体を支援

4. 社会的活動への社員参加の推進

中長期目標を達成することにより期待できること

コスト低減あるいは収益拡大

エシカルな消費行動が拡大する中、目標とする活動の確実な推進と社外への継続的なコミュニケーションにより、顧客からの信頼を獲得することで、結果として長期的なロイヤル顧客の獲得につながることを期待しています。

社会に及ぼす効果

衛生・清潔の正しい生活習慣の定着により、支援するコミュニティの衛生状況の改善や中長期的な生活の質の向上を期待しています。また、将来の科学技術を担う人財やコミュニティを活性化させる若手リーダーの育成を支援することは、誰もが豊かで快適な生活を実現する、次世代を拓く原動力になっていくと考えています。

また、社会的活動への社員参加を促すことで、社員の創造性を活性化し、より革新的で価値の高い“よきモノづくり”へ活かされることを期待しています。

2018年の実績

社会貢献プログラムの実施

1. 子どもたちの正しい生活習慣の定着

①ベトナム学校衛生プロジェクト(ユニセフと連携)

- ・アンザン省の7校2,100人の生徒への衛生教育を実施
- ・アンザン省の公立幼稚園2園のトイレや衛生設備を改良
- ・約100人のボランティア指導員、コミュニティリーダーを育成
- ・アンザン省の40校(約12,000人の生徒と教員)にセラミックフィルター付き浄水器を支援
- ・ディエンビエン省の遠隔地22校において基礎調査を実施

②手洗い啓発

●日本

- ・手洗い講座:全国88校、約5,940人の児童・生徒を対象に啓発実施(出張授業全体では135校、9,773人が受講)
- ・社員のべ806人が講師として参加
- ・教材提供1,583件(全体で2,460件)
- ・教育関係者への研修会4回

●日本以外(台湾、インドネシア、タイ)

- ・67,609人の児童に手洗い啓発実施

③初経教育

●日本

- ・約744,700人の女子小学生に初経セット配布

●日本以外(インドネシア、ベトナム、タイ、マレーシア、台湾、香港、中国)

- ・約491,000人の女子小中学生に初経セット配布

2. 科学技術を担う人財の育成

科学技術に関する自由研究コンテスト(JSEC)への協賛

- ・JSEC2017受賞校を招きスタディツアーを開催(3月)
- ・JSEC2018に特別協賛し、花王賞と花王特別奨励賞を3校8人の高校生に贈呈(12月)

3. コミュニティへの参画と課題解決に向けた支援

①事業場地域でのファミリーコンサート(日本)

- ・栃木県益子町(4月)、山形県酒田市(10月)で実施

②社会起業家育成支援(日本)

- ・3団体への支援を決定。事業成長のための機会を提供
- ・2017年支援団体の成果報告と2018年支援団体のキックオフを目的とした花王社員との意見交換会(オープンダイアログ)を実施(11月)

③災害支援・復興支援活動(グローバル)

- ・北海道胆振東部地震の被害に対し、日本赤十字社を通じて義援金を拠出。また、行政の要請に応じて、緊急物資と生活用品セットをお届け
- ・平成30年7月西日本水害に対し、日本赤十字社を通じて義援金を拠出。また、行政の要請に応じて、緊急物資と生活用品セットをお届け
- ・インドネシアスラウェシ島地震に対し、花王(株)から支援金を寄付(NPO法人ジャバンプラットフォーム)、花王(インドネシア)から寄付金と製品支援
- ・台湾東部花蓮地震に対し、花王(台湾)、台湾カネボウ化粧品股份有限公司から寄付金
- ・グリーンズポトルネード、ハリケーンフロレンスに対し、花王スペシャルティーズアメリカズから物資などの支援

4. 社会的活動への社員参加の推進

①花王ハートポケット倶楽部(日本)

- ・定期的な運営委員会、臨時運営委員会で支援内容を決定

- ・事業場地域の市民活動を応援する「地域助成」を栃木県、和歌山県、茨城県で実施
- ・大規模支援「みらいポケット基金」を通じた助成実施
- ・緊急時災害支援

②ピンクリボンキャンペーン(グローバル)

- ・中高生に向けたがん教育プロジェクトの支援開始
- ・10月~11月に、計9カ国・地域で化粧品カウンセルングコーナーの美容部員や社員が啓発活動を実施
- ・特設ウェブサイト開設による情報提供
- ・製品購入数に応じた寄付
- ・啓発イベントへの協賛:ピンクリボンウオーク(東京)
- ・社員のピンクリボンバッジ着用、イントラネットでの社員啓発
- ・社員参加型の寄付プログラム:フォト募金

社内外に向けた情報発信

社内

- ・イントラネットなどで活動概要や社員参加型イベントの情報提供(33件)
- ・新入社員導入研修での社会貢献活動紹介(305人参加)
- ・社員参加型のボランティア企画:東日本大震災の被災地ボランティア、活動報告会、花王グループ社員の寄付組織「花王ハートポケット倶楽部」を通じたボランティア活動、事業場地域での地域貢献活動など

社外

- ・ウェブサイトやFacebookで50件の情報を発信



→詳細は「社会貢献活動報告書」
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/social-reports/

→サステナビリティサイト>社会貢献の取り組み
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/

具体的な取り組み

ベトナムにおける清潔・衛生習慣の定着に貢献するために

花王は、中期事業戦略としてアジアでの事業拡大を図っています。事業展開国の一つであるベトナムは経済格差が大きく、事業ではアプローチできない人々が多く存在します。特に山間部や農村部、少数民族が多い地域では、衛生環境が整っておらず、慢性の下痢疾患などで子どもたちの健康な発育が阻害されています。

ユニセフ「学校衛生プロジェクト」の支援

2016年から、国連児童基金(ユニセフ)による学校衛生プロジェクトの活動を支援しています。

ベトナム南部・メコン川流域のアンザン省での成果を受け、2018年から住民の大多数が少数民族で構成される北部山岳地域、ディエンビエン省に支援を拡大しました。状況確認と支援計画策定に向けた基礎調査を経て、アンザン省と同様の衛生改善活動を進めています。2018年は、アンザン省とディエンビエン省の54村の住民への衛生促進と、2校でトイレや衛生設備の改良を完了し、安心してトイレに行ける学習環境に貢献しました。また、約100人の教員、ボランティア指導員、コミュニティリーダーを育成しました。

衛生への意識は、学校で学んだ子どもたちから各家

庭やコミュニティに広がり、トイレのない家庭が自宅に新たにトイレを設置するきっかけにもなっています。

これらの活動は、アンザン省の累計240の村がベトナム保健省の基準に基づき屋外排泄根絶を達成する取り組みを後押ししました。

また、遠隔地や緊急時にも安全な飲み水が手に入られるよう、セラミックフィルター付き浄水器の支援を行なっています。この支援は、日本の小学4年生に向けたプログラム「いっしょにエコ日記」と連動しており、日本の子どもたちの節水努力に応じてベトナムの小学校の教室に浄水器を届ける取り組みも組み込まれています。2018年は484校の参加があり、400個のフィルターが届けられました。

2019年も、南部と北部の両省の地域と学校が屋外排泄根絶の認定を受けられるよう、学校やコミュニティ主導の衛生環境改善や衛生習慣の促進を進めていきます。



ディエンビエン省の小学校で、昼食の前に手を洗う子どもたち

高校生の理科教育支援としてJSECに協賛

花王は、“よきモノづくり”の基盤は科学技術からうまれる革新的なイノベーションであると考え、よりよい未来に貢献するために、若い研究者の育成を応援しています。その一環として、全国の高校生・高等専門学校生を対象として開催される科学技術に関する自由研究コンテスト「高校生科学技術チャレンジ(JSEC)」(主催:朝日新聞社、テレビ朝日)に協賛しています。

毎年優れた作品に、花王賞および花王特別奨励賞を贈呈しています。賞の選定にあたっては、花王の研究員が論文を読み、実際に高校生のプレゼンテーションを聞いて審査を行ないます。

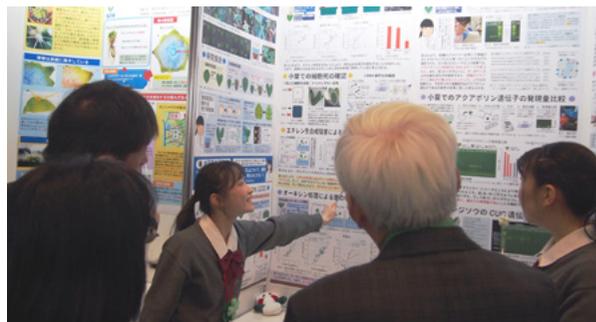
JSECの上位入賞者は、米国で行なわれるインテル国際学生科学技術フェア(Intel ISEF)への出場資格が与えられます。

また、受賞校を花王に招き、施設見学と、研究員との交流を図るスタディツアーを開催して、高校生のキャリア教育支援にもつなげています。

2018年の実績

JSEC2018:花王賞および花王特別奨励賞を贈呈

- 花王賞:
「馬鈴薯澱粉の酸加水分解に伴うヨウ素呈色の不思議な色変化の発見」
庄山隼斗さん、林田ももこさん、山本真太朗さん
(福岡県立明善高等学校)
- 花王特別奨励賞:
「フギレデンジソウの研究～小葉が“ふぎれる”しくみの解明～」
前田萌絵さん、坪倉妃那さん
(ノートルダム清心学園清心女子高等学校)
「鉄-硝酸の化学振動 ～電気刺激を与えず振動反応を再現する新しい方法の研究～」
小川詩織さん、池川日央里さん、三宅渉太さん
(北海道旭川東高等学校)



最終審査で高校生の熱のこもったプレゼンテーションを聞く花王研究員

Intel ISEF2018:優秀賞を受賞

JSEC2017で花王賞を受賞した熊本県立宇土高等学校3年の成松紀佳さん、小佐井彩花さん、高田晶帆さんが、米国で行なわれたIntel ISEF2018の日本代表に選ばれ、物理学・天文学部門で優秀賞4等を受賞しました。(2018年6月)

スタディツアーを開催

JSEC2017で花王賞を受賞した熊本県立宇土高等学校、花王特別奨励賞を受賞した長崎県立長崎西高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校を招いてスタディツアーを開催。研究者との交流を深めました。(2018年3月)

今後の取り組み

今後は、JSEC2018受賞校を招いたスタディツアーの開催、およびJSEC2019への特別協賛を予定しています。

女子小中学生に向けた初経教育の支援活動を拡大

花王は、1978年の生理用品の発売以来、40年以上にわたって、初経を迎える女の子たちとその家族や小学校に向けた初経教育の支援活動を行なっています。

日本では、月経やからだの変化についてまとめた啓発用小冊子と生理用品のサンプルをポーチに入れた初経教育セットを小学校に無償で提供しており、2017年からは公益財団法人日本学校保健会と連携し全国2万校への配布をめざして活動を拡大しました。

さらに2018年は、情報が不足しがちな視覚に不自由のある子どもたちやそのご家族、教育関係者の方々に向けて、啓発用小冊子「からだのノート おとなになるということ」の音訳CDを改訂しました。2003年よりこの音訳CDを提供してきましたが、今回の改訂にあたっては、視覚支援学校の教員や視覚に障がいのある方にヒアリングし、その結果を踏まえ、生理用品の選び方や使い方、月経中の過ごし方など、視覚に障がいのある方の生活場面により具体的に配慮した情報づくりを行ないました。

このCDは、日本全国の視覚支援学校や点字図書館への配布を予定しています。



ロリエ初経教育セット



啓発用小冊子「からだのノート おとなになるということ」CD版

海外では、2018年からインドネシアで、国連児童基金(ユニセフ)による「月経衛生管理プロジェクト」の支援を開始しました。

インドネシアでは、月経の正しい知識が十分に普及しておらず、4人に1人が初経までに月経の知識がなく、さまざまな迷信や偏見も依然として存在しています。

また、学校における教育や衛生環境が十分に整っていないため、6人に1人が月経時に少なくとも1日は学校を休むという現実があり、女子生徒の出席率低下の一因になっています。

そのような課題を解決するため、子どもたちが月経衛生についての総合的な知識を増やせるよう、バンテン州タンゲラン県の40校の公立中学において、指導教員の育成や生徒参加型の教材開発などによる行動変容に向けた啓発活動を行なっています。2018年5月30日に行なわれた県との発足会には、地方政府行政官、支援校の校長、代表教員とともに、花王インドネシアの社員も参加しました。2020年までに男子生徒を含む12,000人以上の生徒へ授業を行ない、2,500人以上の行動変容をめざしています。



月経衛生の教材について話し合う子どもたち
©UNICEF Indonesia/2018

Topic 「ベトナム衛生プログラム」を開始

花王は、ベトナムにおける清潔・衛生習慣の定着に貢献するため、「ベトナム衛生プログラム」を開始しました。このプログラムは、「衛生管理リーダー育成プログラム」「衛生奨学金制度」「学校衛生プロジェクト」「楽しい手洗い教室」の4つの取り組みで構成されています。2018年10月にベトナムのハノイ医科大学にて、「衛生管理リーダー育成プログラム」「衛生奨学金制度」に関し、ハノイ医科大学、神奈川県立保健福祉大学、東北大学が署名し、関係者とともに調印式を行いました。

「衛生管理リーダー育成プログラム」は、感染対策のシステム化を図るとともに、医療従事者や学生向けに、感染対策や衛生管理に関するセミナーを行なうというものです。ハノイ医科大学、東北大学、聖マリアンナ医科大学と協働で実施し、将来的には、他の日本の大学や大学病院に参加いただくことも検討しています。

「衛生奨学金制度」は、ハノイ医科大学の卒業生を対象とし、神奈川県立保健福祉大学の大学院留学への奨学金を提供するものです。ベトナムの保健衛生分野で活躍する食品衛生管理の専門家を育てることで、人々の健康な暮らしを実現していきます。



「ベトナム衛生プログラム」の調印式

ハノイ医科大学学長からのメッセージ



(左) A/Prof. Nguyen Duc Hinh

MD, PhD
ハノイ医科大学前学長

(右) Prof. Ta Thanh Van

MD, PhD
ハノイ医科大学学長

2018年はベトナムと日本が外交関係を樹立してから45年の節目の年で、さまざまな記念行事が開催され、両国の関係はかつてないほど緊密になりました。この「ベトナム衛生プログラム」の調印式も、外交関係樹立45周年を記念する事業として認定されたものです。

ハノイ医科大学も、日本と深いつながりがあります。本校でがんの免疫療法に取り組んでいるタ・ティン・バン教授（現学長）とチャン・フイ・ティン准教授は、2018年にノーベル生理学・医学賞を受賞した京都大学の本庶佑特別教授の下で研究者として腕を磨きましたし、副学長も日本で8年間、研究に従事しておりました。さらに、本校に在籍する教員のうち40名が、日本で長期にわたり研究した経験があります。

本校は医学部のほか、ベトナムで初の栄養学部を開設しており、医療や食の現場における感染対策や衛生管理は大きなテーマの一つです。今回調印した「衛生管理リーダー育成プログラム」「衛生奨学金制度」において、本校と神奈川県立保健福祉大学、東北大学、聖マリアンナ医科大学などの知見、そして、花王が事業で培った医療施設や厨房における衛生管理の知見を融合させて、優れた「衛生管理リーダー」が続々と誕生することを期待しています。

長年にわたり、日本の皆さまがベトナムとハノイ医科大学に対して多大な支援をいただいていることに篤く御礼を申し上げます。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

※ このメッセージは、前学長であるグエン・ドゥック・ヒン教授より2018年10月にいただいたものです。2018年12月、タ・ティン・バン教授が学長に就任されました。